

《履修上の留意事項》精神保健福祉士国家試験を受験予定の者は必ず履修すること。

複数の非常勤講師が担当する科目であるため、授業の開講日が不規則となる可能性があることに留意する。

《担当者名》 土田正一郎（非） 阿部幸弘（非） 下出崇輝（非） 白坂知彦（非） 川村敏明（非） 高橋美帆（非）
柳生一自（心） 鈴木和 suzuki_w@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

本講義では、ソーシャルワーカーとして精神的な困難にある人の支援をする上で大切な基礎知識を学ぶ。具体的には精神医学の歴史、生物学的基礎、成因と分類、主な症状、各種検査、そして主な精神障害（不安障害、統合失調症、気分障害、パーソナリティ障害、知的障害、発達障害等）について学びを深める。また、疾病構造の変化に伴う外来医療、在宅医療、入院医療の現状を統計的データとともに学ぶ。

【学修目標】

社会福祉、特に精神医療福祉領域における臨床理解を深めるために、主に以下の3点について学ぶ。

1. 精神医学の歴史を知った上で現代の精神医療の現状、今後の課題を理解する。
2. 精神現象を司る脳の基本的な構造や機能を理解する。
3. 主要な精神障害の特徴や、現在行われている治療・リハビリテーションについて理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	代表的な精神疾患	器質性精神障害[F0]について理解し、説明することができる。	白坂
2	代表的な精神疾患	精神作用物質使用による精神および行動の障害[F1]について理解し、説明することができる。	白坂
3	代表的な精神疾患	統合失調症[F2]について理解し、説明することができる。	白坂
4	代表的な精神疾患	心理的発達の障害[F8]について理解し、説明することができる。	白坂
5	精神障害の理解	精神障害の概念を知る。 精神疾患の成因と分類を理解し、説明することができる。	鈴木
6	精神疾患の症状と診断	精神症状と状態像を知る。 診断の手順と方法を知り、列挙できる。 心理的検査と身体的検査を分類することができる。	鈴木
7	精神医学概論	精神医学、医療の歴史と現状について知る。	土田
8	精神医学概論	精神現象の生物学的基礎、こころについて理解し、説明することができる。	土田
9	小児期青年期に代表される障害	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害について知る。	柳生
10	代表的な精神疾患	気分（感情）障害について理解し、説明することができる。	下出
11	代表的な精神疾患	児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害[F9]について理解し、説明することができる。	下出
12	代表的な精神疾患	パーソナリティ障害と行動の障害[F6]について理解し、説明することができる。	下出
13	代表的な精神疾患	精神遅滞（知的障害）[F7]について理解し、説明することができる。	下出
14	精神科医療の実際	精神科医療の現場で起きている現状と、対応や取り組みを知り、それらについて自分の考えや意見をまとめることができる。	土田
15	精神科医療の実際	精神科医療の現場で起きている現状と、対応や取り組みを知り、それらについて自分の考えや意見をまとめる	土田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ることができる。	
16	精神疾患の治療	精神科薬物療法について理解し、説明することができる。	下出
17	精神疾患の治療	電気けいれん療法などの身体療法、精神療法について理解し、説明することができる。 精神科リハビリテーションや環境・社会療法について理解し、説明することができる。	下出
18	精神科医療機関の治療構造および専門病棟	疾病構造の変化や外来診療の方法について理解し、説明することができる。	土田
19	精神科医療機関の治療構造および専門病棟	在宅医療（訪問診療・往診）や入院医療について理解し、説明することができる。	土田
20	小児期青年期に代表される障害	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害について知り、説明することができる。	柳生
21	精神医療と福祉および関係機関との連携の重要性	治療への導入に向けた支援や再発予防のための支援について理解し、説明することができる。	阿部
22	精神医療と福祉および関係機関との連携の重要性	治療への導入に向けた支援や再発予防のための支援について理解し、説明することができる。	阿部
23	精神科医療機関における臨床	精神科のクリニックにおける臨床や経験について理解を深める。	高橋
24	精神科医療機関における臨床	精神科のクリニックにおける臨床や経験について理解を深める。	高橋
25	精神科治療における人権擁護	精神科治療と入院形態やインフォームドコンセントについて理解し、説明することができる。 精神科医療機関における隔離、拘束のあり方について理解し、説明することができる。	鈴木
26	精神科治療における人権擁護	精神科救急医療システムとその対象、移送制度による入院について理解し、説明することができる。	鈴木
27	北海道日高地方における精神保健福祉の取り組み	北海道日高地方における精神保健福祉の歴史、取り組みについて理解を深め、説明することができる。	川村
28	北海道日高地方における精神保健福祉の取り組み	北海道日高地方における精神保健福祉の歴史、取り組みについて理解を深め、説明することができる。	川村
29	北海道日高地方における精神保健福祉の取り組み	北海道日高地方における精神保健福祉の歴史、取り組みについて理解を深め、説明することができる。	川村
30	前半・後半の振り返り	本科目の振り返りを行い、グループワーク等を通じて理解を深める。	鈴木

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験 100%

前期・後期それぞれ定期試験を実施し、最終成績はその平均点により評価する。

【教科書】

最新 精神保健福祉士養成講座『1 精神医学と精神医療』（2021）中央法規

【参考書】

その都度紹介する。

【備考】

この科目は、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「精神医学と精神医療」に該当する。
また、教職課程では、「大学が独自に設定する科目」に該当する。

Google Classroomを利用して学習課題を掲示する。
Google Formを活用し、学生の理解度を把握する。

【学修の準備】

- ・精神障害について、常日頃から広く興味関心を持ち、教科書や参考書、図書館の関係資料（新聞や雑誌、画像）を講義前、講義後に見ておくことが望まれる。
- ・予習は次回の授業で行う学習内容について読み込み、理解できたことや疑問点などを明確にしておくこと（予習2時間）。
- ・復習は授業で取り上げた学習内容について振り返り、理解を深めること（復習2時間）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1 人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

【実務経験】

土田正一郎（医師）、阿部幸弘（医師）、下出崇輝（医師）、白坂知彦（医師）、川村敏明（医師）、高橋美帆（医師）、柳生一自（医師）、鈴木和（社会福祉士・精神保健福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

精神保健福祉に関する専門職としての実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している